

新井健生 監修

## 『図解雑学 ロボット』(ナツメ社)

今日、私たちの生活に様々な形でロボットが活躍しています。医療の現場、工場や警備の場、そして映画、小説、漫画といったフィクションの世界など、様々な種類のロボットが存在しています。最近ではロボット開発を行う理工系の大学生が随分取り上げられるようになり、ブームにもなっています。

さて、皆さんはロボットといえばどんなロボットを思い浮かべますか？鉄腕アトム？ガンダム？はたまた SF 映画スターウォーズに登場する C3-PO？最もこれらのロボットはフィクションの世界のものですが、現実においても人間型ロボット ASIMO（アシモ）やペットロボット AIBO（アイボ）など非常に優れたロボットが次々と登場し、フィクションの世界が現実のものになるのではないかと思わせる程、ロボット開発が日々進んでいます。そして彼らほど目立ちませんが、様々なロボットが私たちの生活を支えています。とは言え、ではロボットがどんな仕組みで、どのようにして活動するのかを説明することはとても難しいものです。もっとも最先端の科学技術ですから、無理もないのですが。

本書はロボットについて仕組み、稼働方法、そして将来像など様々な視点から紹介しています。専門用語や普段聞き慣れない言葉がたくさん出てきますが、解説が丁寧にされていて、図や写真が豊富に使われているのでわかりやすい内容となっています。

話は変わりますが、フィクションの世界では感情を持ったロボットが度々登場します。大抵の作品では彼らが人類のために活躍するのですが、それとは反対に人類に反発し、危機をもたらす作品も数多くあります。これらの作品が持つ意味とは何かということを考えてみますと、人類が道を誤れば、現実に起きかねないということを示しているのだと思います。ロボットは私たち人類が生み出しているものです。ということは私たちの役に立つロボットを生み出すのも、はたまた危害を加えるものを生み出すのも私たち次第ということなのです。本書でも取り上げられていますが、感情を持ったロボットというのは開発の究極形であり、簡単に実現できるものではないようです。しかし実際あらゆる事を可能としてきた技術の進歩は、将来それらも実現させるかもしれません。だからこそ私たちのような直接開発に携わっていない人も、ロボット開発を始めとする技術の進歩に関心を持っておく必要があるのです。役立つものは大いに称え、危険を及ぼしそうなものは止めるという技術に対する監視が私たちに今後ますます求められていくことでしょう。

本書は私たちにロボットというものをさらに身近にし、また考えさせてくれる一冊です。本書名ではありませんが「雑学」としてロボットについての知識を蓄えておくのもいいのではないのでしょうか。

(機械化推進委員会委員長 宮杉 浩)